

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

《特集》

中高生の読書を考える

- 図書館掲示板
- レファレンスコーナー
- 児童コーナー わかば通信

2020.2

No.185

contents

目次

ページ

01

特集

中高生の読書を考える

- ・ <インタビュー記事> 不来方高校の畠山先生に聞いてみました
- ・ YA出版会 ～ その思いと活動

12

レファレンスコーナー

- ・ 大正・昭和の即位礼について知りたい。
- ・ 花巻駅発の時刻表が掲載された古いチラシを持っているが、いつ頃のものが知りたい。

14


児童コーナー

- ・ わかば通信
よんでビンゴ！

15

図書館掲示板

- ・ 行ってみよう 文学フリマ岩手！
- ・ 編集後記



タイムスリップ
したいなら
古典の名作

特集：中高生の読書を考える

県教育委員会が行っている「岩手県子どもの読書状況調査」では、小学校、中学校、高校と、学年が上がるにつれて読書冊数が減っていることが分かります。また、読んだ本の内訳からは、特に中高生の場合、図書館利用以外での読書が高い割合を占めていることが見て取れます。実際、中高生の公共図書館の使い方を見てみると、おそらくどこの館でも自習室や学習席の利用がほとんどで、貸出やレファレンスサービスを利用することはあまりないものと推察されます。

私たちは主に公共図書館での様子しか知りませんが、生徒たちは生活のメインフィールドでもある学校で、図書館や読書とどのように関わっているのでしょうか？

今回の特集では、専任司書教諭として岩手県立不来方高校に勤務されている畠山政文先生に、学校図書館の様子についてインタビューしてみました。また、後半では、出版社の視点からヤングアダルト世代の読書推進に取り組んでいるYA出版会から、会の設立経緯や活動内容などについてご紹介いただいています。それぞれの館での中高生の読書推進のヒントにいただければ幸いです。

<インタビュー記事> 不來方高校の畠山先生に聞 いてみました

矢巾町にある岩手県立不來方高校は、人文・理数学系、体育学系のほか、県内では珍しい芸術学系と外国語学系の課程を持つユニークな高校です。同校は専任の司書教諭を配置している数少ない学校の一つであり、最近ではNIEに関連して学校名を新聞で目にしている方も多いのではないのでしょうか。

- ・不來方高 視野を広げ新たな視点 [岩手日報 2019.9.16]
<https://www.iwate-np.co.jp/article/2019/9/16/64600>
- ・【公開授業校】不來方高(矢巾町) [岩手日報 2018.7.18]
<https://www.iwate-np.co.jp/article/2018/7/18/18664>

今回の特集では、「いわ 100」選定委員も務めた不來方高校の専任司書教諭 畠山先生から、お仕事の内容や高校生の図書館利用、読書の実際などについて、お話を伺ってみました。



今日はどうぞよろしくお願ひします。まず、畠山先生は専任司書教諭ということですが、専任というのは県内では珍しいですね。

専任司書教諭がいるのは、県内では北上翔南高校と不來方高校の2校だけです。不來方高校に専任司書教諭という立場で行ってこれということで、定年退職の2年前にここに来ました。私の人生設計では前任校(黒沢尻北高校)でめでたく退職するはずだったんですけどね(笑)。

クラスや部活の受け持ちはあるのですか？

担任クラスは持たないけれども、担当教科はあります。私は国語で、現代文も古典も教えています。授業時間が少なくなると聞いた時はラッキーだと思ったんですけど、今にして思うと結構、授業が好きだったんだと思います。授業が少なくなった分をすべて図書館運営に向けられるわけではないし、教材研究の手間は同じだし、部活も普通に持たなければならない。部活は女子サッカーを受け持っています。



国語科の先生としてお仕事をされてきて、その中で図書館を受け持った期間はかなり長かったのでしょうか？

生徒課、総務課、教務課、厚生課とか色々やってきたんですけど、30代からはほとんど図書館の担当が多いです。

私はどちらかというと環境整備とかハード面の整備の方が得意で、こまめに図書新聞を書いて本を紹介するみたいなよりは、本を飾る場所を作ったり、掲示場所をバーンと作ったりとかの方が得意です。生徒が来たくするような、見たくなるような、とにかく本が目につくようにしています。以前勤務していた高校でも、そういうコーナーを作ったり、自分で大工仕事をして棚を作ったりしていました。

畠山先生の一日の仕事の流れは、大よそどんな感じなのでしょう？

図書館の鍵を開けて、暖房を入れて、まあ、そんなのは普通にやります。あとは各フロアに新聞を配ったり、シーズン中は朝読書の見回りもします。そのあとはもう授業に入っちゃいます。毎日というわけではないけど、選書は授業の合間に行っています。

それから、届いた本に蔵書印を押したり、本のデータを図書館のパソコンに入れたり、年度替わりの時に新しいバーコードを作ったりとか、受入業務ですね。あとは受け入れる新聞のチョイスだったり支払いだったり。昼休みと放課後には図書委員の指導や貸出係の指導なんかもあります。南昌ホールの「案棚店（アンテナショップ）」[※図書の出張展示場所]の本の入れ替えをしたり。もう一人の先生が図書館を、例えばクリスマス仕様にレイアウトしたりすることもあります。



案棚店（南昌ホールは教室に近い校舎西側にある）

アンテナショップの入れ替えは毎日やられるんですか？

短い時で2週間くらい。うっかり1か月半くらい置きっぱなしにしてしまうこともあるんですけどね（笑）。あそこには15、6冊くらい並ぶんです。頼んでいた本が入った時、あるいはちょっと冊数が少ないなって時は、古い本でもこんなのがあるよと紹介しています。

ただ、皆が皆、あっち[アンテナショップ]からこっち[図書館]へ来て正式に借り出すわけでも

ないので[※展示場所は校舎西側、図書館は東側にある]、ひとりでに無くなることもあります。先生方も気に入ったのをフツと持って行ったりしてね。二週間経ったらいつの間にか戻っていた、なんてこともたまにあります。ただ、それは考え方次第で、本にとっては読まれないより良いかな、と解釈しています。だからある程度、誤解を恐れずに言えば紛失も覚悟してやっています。本当は、すぐ借りられるように図書館前に飾ればいいんですが、この廊下は人通りが少ないんです。体育に行くときに通るくらいで。みんな時間ぎりぎり動くので、ここに展示してもあまり見てもらえない。結局、あそこが一番。昼食を販売する場所なので。あそこに生徒がダーッと並ぶんですよ、50人くらい。その時に本が飾ってあると、待っている間に「お、面白そうな本があるぞ」という感じになるのかなと。あそこには手製の椅子も2脚置いていて、座って読むこともできます。

コンビニでレジ前に置いているお菓子と似ていますね。待ち時間についつい手に取る、といった感覚でしょうか。

そうかもしれません（笑）。ほかにも図書館報を作ったり、読書感想文コンクールの要項を作ったり。不來方高校では図書委員がコンクールの一次審査を担当しています。それから「いっしょに読もう新聞コンクール」とか「芸術鑑賞」の準備やポスターを作成したりとか。そういう行事的なことも絡んでいきますね。

芸術鑑賞の授業というのは、図書館業務とはまた別のものとして携わっているのですか？

図書課としてやっています。「芸術鑑賞」は段取りが大体決まっているので、係の先生と生徒とで、来年度何が見たいかを前の年に決めて、業者さんとやり取りして。それで開催日近くになったら、生徒のモチベーションを上げるよう、

ポスターを作ったりするんです。そういう業務がやっぱり出てきます。上げれば結構ありますね。何とかこなしている感じです。

あとはこんなこともやって、ちょこちょこ刺激与えながらみたいなの…。

これは何ですか？



これは、お気に入りの短歌、あるいは自分で短歌を作ってもいいので、写真を写すのでもなんでも一枚の作品に、見栄えのいい感じに仕上げなさいと、授業でやったんです。短歌は百人一首だったり俵万智だったり、色々な作家から取っている。去年までは「夏の思い出」ということで、真ん中に写真を貼って右側に自作の短歌とか俳句を書くという形でやっていたんですよ。文化祭で模擬店ばかりやっても仕方がない、文化的な部分のアピールが増えて生徒も楽しくやれるんじゃないか、と。赴任した学校で20年ぐらいやっているんです。国語と図書館とボーダーレスにやっています。もともと、面白いことをやりたいなあと始めてんだけど、あちこちで似たようなものがやられるようになってきたようですね。写真と、俳句や文章のコラボとか。文化祭ではとても人気のあるコーナーになります。

これを始めた意図というのは、どういったところにあるのでしょうか？

日本人なので俳句や短歌に親しんでもらう、ということ。あとは、写真を撮るときのセンス磨きとか。写真を撮るのでも俳句を作るのでも、写真を選んで切り取るのでもそうですが、美しいものを求める姿勢だったり、ベストを尽くすということであったり。どんなことも楽しむということですね。完全燃焼してほしいので、なんでも全力を尽くせと言っています。楽しみ、と。

ところで、不來方高校には学校司書や図書館ボランティアはいますか？

いえ、いません。実習教諭の先生が去年転勤してきてくれて、図書委員会は随分その先生にやってもらって助かっています。図書情報の発信だったり、パソコンもできる人なので。

図書館を施錠している時間はありますか？

施錠はしません。朝開けたら夜まで、本当は貸出は5時までなんだけど、私はいる限り開けていますね。受験勉強している子は6時半過ぎまでやっていたりします。



図書館内の様子

専任とは言え、さすがに一校の図書館を切り盛りするとなると、相当大変そうですね…。

それこそ廃棄とか、やることを本当にやればそうですね。最低限の事ぐらいしかやれていないんです。ほかの仕事を手際よくこなせられれば、もうちょっとできるんじゃないかなと思いますが（笑）。部活では生徒と一緒にボールを蹴ったり走ったりしなければならぬので、なかなか体力も必要です。

選書は主に畠山先生が行っているのでしょうか？ 図書委員の子たちが本選びに加わることもあったりしますか？

図書委員の子を加えてというのは、わたしが来てからはまだやっていないです。ほしい本をリクエストする用紙はありますよ。こんな感じで。先生からも生徒からも来ます。こちらで検索をかけて、変なマンガなどはダメってことにしています。何とんでも先生方が一番読みますね。電車通勤で、絶対に座らないでバランスを取りながら体力と教養の強化のために、北上からずっと立ってくるという先生もいますけど（笑）。私よりもはるかに読んでます。

本選びは、自分で新聞の書評欄だの『ダ・ヴィンチ』だの色々なものを読んで、これは良さそうだなと思ったものを注文しています。どこも予算を残しながら買っているの、今からの時期は単価が高いカタログがいっぱい送られてくるんです。そういうのは避けたいので、年間通してこまめに注文することになっています。ちょっと軽いのが多いんじゃないとか、こんな新しいのがよく手に入ったねとか、言われることもあります。例えば、村上春樹の『騎士団長殺し』は、前評判もすごかったので、かなり借りられるんじゃないかなと考えて上下で3セット大奮発して買ったりとか。そうすると回転がよくなって熱が冷めないうちに待た

せることもなくなり先生方も読める、生徒たちも読める、という感じになります。



リクエスト用紙

新着リストを作ったりもしますか？

新着図書などを紹介する「図書館だより」は、図書委員が作ることにしています。あとは年度末に発行される「図書館報」があって、その中で今年入った図書ということで、生徒たちには周知しています。図書館は教室からちょっと距離がありますし、省エネで廊下も暗くなっているのが雰囲気も暗いのかな（笑）



図書館報『こずかた』

ところで、学校には毎年新しい生徒が入ってきます。その子たちが何を読むのか、何に興味を持っているのか、リサーチに相当な努力が必要だと思うのですが、その辺りは？

朝読書の時に「なに読んでんの？」とかね。自分が読んだ本をメモするシートを各クラス

に置いているので、本当はそれを見れば良いんでしょうけど。記入を強要しても仕方がないので、書きたい子は書いてねとしています。その辺は担任の方がむしろ分かっているかもしれませんが。リクエスト用紙なんかは、生徒は図書館にあるかどうかも見ないで書いてくるので、中には探せば図書館にあるものもあります。

——谷崎潤一郎とか、今の子どもも読むんですね。意外な感じがします。結構古い本も多いですし…東洋文庫もありますね。

今は、名作と言われる作品もかなりマンガ版になっていますね。作者の主観でアレンジも入りますけどね。あんまり変なのでなければいろいろ注文します。

生徒によってはマニアックな子もいてこちらが全く知らないような本をリクエストしてきます。ただ、本当に読みたいというか、すぐに手に入れたい子は、自分で買っているようです。

県教育委員会の調査を見る限り、実際問題として高校生になるとガクっと本を読まなくなりますね。授業や部活動で忙しくしているのだと思いますが。

その調査ではそうですよね。でも、朝読書はやっています。4月から9月まで、毎朝10分間。ただ、これも最初は大変でした。8時25分になったら机に向かって、余計なものはしまつて10分間本を読むと、これは明文化されているんです。でも、生徒が遅刻して来たり、雑談していたり、途中で先生がホームルームを始めちゃったりと。やっているクラスはやっているんですが、最初はクラスごとのばらつきが大きくて。で、2年目からは私が巡回して、うるさいクラスには入って行って注意し、寝ている生徒がいれば起こしました。そうしているうちに落ち着いてきて、とても静かに読むようになりました。

本来「読みたい」生徒も多くいたわけですが。それがなかなか読みづらい状態だったのがおかしいわけで、今は多くの生徒が「読みたい」生徒になっているように見えます。今年教育実習に来た卒業生が、朝読書すごい、不来方には見えない、って言ってました（笑）。

それで大分良くなったんですが、やっぱり朝読書のことは図書館のオリエンテーションできっちり釘を刺します。担任の先生たちにも年度初めの職員会議で目的やコンセプトをくどいくらいに説明します。校内放送をかけ、各クラスをのぞいて毎日見回りで何周もし、そうやって落ち着いてくると、あとはあっさり見回るだけでよくなるんですよ。油断はできませんが（笑）

朝読書のコンセプトというか、ベースにある考えは、どういったことなんでしょうか？

本に親しむ、ということじゃないでしょうか。読む機会がないんですから。9月で終わってアンケートを取ると、一年を通じてやってほしいとか、私は一日の中でこの10分しか本を読む時間がありませんとか、15分にしてくださいませんかとか。そういう意見はけっこうあります。一方で、部活で忙しいからやめてほしい、というのもあります。生徒が700人も800人もいれば、色んな意見がありますね。

通勤途中に本を読むのは朝読書に似ているかもしれませんが。一日を始めるにあたっての心を落ち着ける時間、といったニュアンスも感じます。

それはよく言われます。ホームルームの、始まりが違う、落ち着いて始められると言われます。声が無い、シーンとした中で朝読書をするので。もっとも、その雰囲気作りが何より大変ですが。私語しちゃいけないっていう雰囲気になるまで。

図書館利用のオリエンテーションのようなものはあるのでしょうか？

4月に入学生にやります。1クラス一時間まるまる。どこに何があるかとか、あるいは借り方、それからバーコードで貸出処理をするので生徒手帳に貼るバーコードを一人一人に渡したり。あとは読書がなぜ大事かとか、そういう話の方が私は多いです。もちろん学校を快適にするために、君たちが好き勝手する場所じゃないよと、言わずもがなのことも確認しておきます。

授業の中で図書館を絡めて何かをするということはありますか？

各教科で図書館を使うことは、ちよくちよくあります。調べ学習をさせたり。英語や国語でも使うし、社会でも使いますね。

それから、不來方高校では伝統的に、「卒業論文」と名付けて、12月頃から図書館で資料を漁りながら原稿用紙2、30枚分の論文を書いて卒業するというをやっています。特に今の時期、推薦入試やAO入試で進路が決まった3年生の子たちはある程度時間がとれるので。テーマは生徒任せ。だから、管理栄養士を目指している生徒は栄養とか食物をテーマに書いたり、体育学系の生徒は筋トレの事を書いたりとか、それぞれの進路に合わせて選んでいます。

ただ、監督の先生がつかないとすこしざわついたりします。クラスをうまく分けたり、使う時間をずらしたりして、2月までモチベーションを保たせるのが3学年の苦勞するところです。

卒論を書く時に図書館での調べ方について改めて授業をする、ということもありますか？

それは、はっきり言うとあんまりやってないんですよ。生徒もいろいろなので、どれぐらい

やればいいのかと思うんです。自分でアクティブにいろいろ見て回って資料を充実させる生徒もいるし、手持ちぶさたになってしまう子もいます。そんな時は、どんなことやってるの、じゃあこら辺にこんなのあるよとか、新しい本はこれだよと渡したりとか。

卒論は、大学に進むにあたっての教養だとか、高校時代のまとめだとか、建前は色々ありますが、進路が決まった子のモチベーションを保つためという面もあります。きちっとやる子はやりますし、コピペに近いものになっちゃう子もいます。

大学では単位を取るためにレポートを出さなければならない。すると、楽をしようとコピペする学生が出てくる。それを判定するソフトを作った、なんてニュースもありましたね。

今は読書感想文なんかも、フリーでこの感想文を使っていいよというのがあって、それをコピペすればできるんですよ。『こころ』だったり『舞姫』だったり、色々なパターンがあるらしいです。ただ、こっちは審査員だから、見た時にこう、どう見てもこの生徒の語彙じゃないよねと。で、たまに検索するとヒットしたりして（笑）。伝統ある日本の読書感想文にもネットの魔手は伸びてきています。（笑）

不來方高校は、第二外国語もあって外国語の選択肢がかなり広いですが、蔵書にはそういった本もあるのでしょうか？

少しはありますが、今は教材として当該生徒が買いますので。ここ[司書室]にも中国語の読み物とかあるんですけど、古いのはやっぱり使われないようですね。言葉や表現はどんどん新しくなりますから。公共図書館と違って保存する義務がないので、使われないものはどんどん廃棄するべきなのですが、もったいながりなのでなかなか捨てられないんです。今も図書館は

飽和状態で、本棚にほとんど余裕がありません。



書棚の様子（棚板の手前と奥、2列に並んでいる）

ちなみに、蔵書冊数はどのくらいですか？

バーコードがあるもので2万4千から5千冊くらい。バーコードがないのもありますので、そういうものや雑誌類はメモして貸すことにしています。

どういった本がよく読まれますか？

去年は『キングダム』というマンガでしたね。全巻そろっています。貸出目標は一年間に1,200冊で、実数は毎年千冊弱くらい。小説で人気なのは山田悠介、有川浩、朝井リョウとか、若い作家が多いです。マンガは視覚にダイレクトに訴えてくるので、疲れ気味の運動部の生徒などには体力的にも楽なのかな、と（笑）。活字からイメージを作り上げることも楽しいはずなんです——。



書棚の様子（文学選集から漫画まで幅広く並んでいる）

生徒たちにこういう本を読んでもらいたいとか、そういうのはありますか？

うーん…こういった本ってことではなく、何と言うか、行動は起こしてほしいと思っています。例えば、国語の問題集をやっていると、小説の一部が出てくる。その問題を解くわけです。その時に、問題だったのを忘れてついのもり込んでしまうような小説とか、あるんですよ。そういうものの原典を図書館で漁ってほしい。

だから、授業の時に生徒には、こういう小説があるけど、これはちょっと際どい場面が出てくるから絶対読んじゃ駄目ね、とか（笑）。これまだ早いから絶対読んじゃダメって。題名まで書いて、作者まで書いて、読むなって言います（笑）。この本いいんだけどさあ、まだちょっと早いからねえ、こういうストーリーなんだけど…と言うと「その後どうなるんですか？」となる。そういうブックトークみたいなのは結構ありますね。

先日は弓道部の生徒が、進学しても弓道をやりたいと言っていたので、弓道のいい話あるぞ、中島敦の『名人伝』は知ってるか、というと、知らないという。それなら図書館に来なさい、といって貸出を一冊稼いだり（笑）。私も生徒に勧めて、こんな話だったかと、昨夜読みました（笑）。自分の語彙を増やすとか、言い回しのレパートリーを増やすためにも、もう少し読んでほしいというのはありますね。読書を習慣にしている生徒は成績がいいですよ（笑）。国語に限らず、読む力とイコールのような気がしますね。読むのが早い、読むのが正確というのは、やはり小さい時からの訓練なのかなと。

では最後に…畠山先生目から見て、高校生と本の関わり方というのは、どんな感じでしょうか？

小さい時から読む習慣のある子は、むしろ離れられないというか、つい読んでしまうものだ

と思います。それから、さしあたり受験で自分に必要だとか、面接試験で足しになるような本は結構読むかもしれない。大学のどこそこの学部に行きたいので、その時期だけ福祉系の本をとにかく読み漁るとか。そういう傾向はありますね。あるいは、『Standard』とか『Number』で自分の競技の特集をした時には、体育学系の生徒はそこは読むとか。そんな感じです。漠然と教養のためとか、いろいろな興味のおもむくままにとか、そういう時間的余裕も精神的なベクトルはあまりなさそうに見えます。だから偏りが見られます。ホラー映画についてはめっぼう詳しいけど、「横綱」という語も「大谷翔平」も知らない（笑）

自分の事を思い返すと、中学のときに徒然草に興味を持って読んだ憶えがあるんですけどね。学校とは関係なしに。今の生徒はあまりそういうのではない感じがします。生徒は基本的に、ストーリーが面白いか、ストレートに自分の利益にならないと読まないです。何か、利益になる本に向かいがちです。だから結局、迫力のあるマンガとか、そういうのになってしまうのかもしれない。もちろんマンガにも深いものも多くありますが——。



【インタビューー】

姉帯裕子・安保和徳・高島律子（岩手県立図書館）

参考：館報にみる貸出冊数上位図書

2018年度

1	キングダム 原 泰久//著 集英社 2006~
2	字が汚い！ 新保 信長//著 文藝春秋 2017.4
3	トラウマの国 高橋 秀実//著 新潮社 2005.2
4	図書館戦争 有川 浩//著 メディアワークス 2006.3
4	獣の奏者 鬨蛇編 上橋 菜穂子//作 講談社 2006.11
4	八日目の蟬 角田 光代//著 中央公論新社 2007.3
4	悪の教典 貴志 祐介//著 文藝春秋 2011.11
4	宇宙兄弟 小山 宙哉//著 講談社 2019.8
4	火花 又吉 直樹//著 文藝春秋 2015.3
4	マンガ 君たちはどう生きるか 吉野 源三郎//原作, 羽賀 翔一//マンガ
4	5分間で心にしみるストーリー エブリスタ//編 河出書房新社 2017.7
4	5分後に後味の悪いラスト エブリスタ//編 河出書房新社 2017.7
4	みみずくは黄昏に飛びたつ 川上 未映子//訳, 村上 春樹//語る
4	スマホを落としただけなのに 志駕 晃//著 宝島社 2017.4

『こずかた 第31号』（岩手県立不来方高等学校 2019.3）より

2017年度

1	ぼくは明日、昨日のきみとデートする 七月 隆文//著 宝島社 2014.8
1	マンガで身につく超高速勉強法 椋木 修三//著, rikko//マンガ
3	名のないシヤ 山田 悠介//著 角川書店 2011.11
3	パーティ 山田 悠介//[著] 角川書店 2007.10
3	世界幸福度ランキング上位13カ国を旅してわかったこと マイケ・ファン・デン・ボーム//著, 畔上 司//訳 集英社インターナショナル 2016.7
3	可笑しな家 黒崎 敏//編著, ビーチテラス//編著 二見書房 2008.7
7	インド日記 小熊 英二//著 新曜社 2000.7
7	暗黒女子 秋吉 理香子//著 双葉社 2013.6
7	文豪ストレイドッグス 02 朝霧 カフカ//原作, 春河 35//マンガ 角川書店 2013.8
7	ゆめにつき ききやま//原作, 日日日//執筆, 有坂あこ//挿画
7	文豪ストレイドッグス [3] 朝霧 カフカ//[著] KADOKAWA 2015.5
7	蜜蜂と遠雷 恩田 陸//著 幻冬舎 2016.9

『こずかた 第30号』（岩手県立不来方高等学校 2018.3）より

<YA出版会> YA出版会～その思いと活動

YA出版会は1979年の設立から41年目を迎えました。昨年10月より、会の名称をヤングアダルト出版会から変更し、「読まない人に読ませるよりも、これから読む人を育てる」というキャッチフレーズとともに12社で活動しています。



県立図書館で開催した中堅職員研修の様子[2019.7]

設立当初はヤングアダルトというジャンルは、日本ではまだ知られておらず、書店にも児童書と一般書の橋渡しとなるような、YA世代（13歳から19歳）に向けた棚がありませんでした。初代会長の中村勝哉（晶文社社長：当時）が、アメリカに“ヤングアダルト”（略称YA）という言葉があり、図書館がティーンエイジャーを子どもとして扱うのではなく、大人として対応するべきだという考えがあるということを知ったのをきっかけとして、「YA世代の心をとらえる本を活発に出版し、YA世代に読書を広げよう」と、YA出版会はスタートしました。

中高校生は、小学生の時に比べて、読書時間がとりにくい傾向にあります。しかし、この時期にこそ、教科にとどまらない幅広い知識を得て、また深い理解力を培うために読書は必要です。また、児童書から一般書に移行する時期でもあり、選書に迷う時期でもあります。これに対処すべく活動を続けてきました。

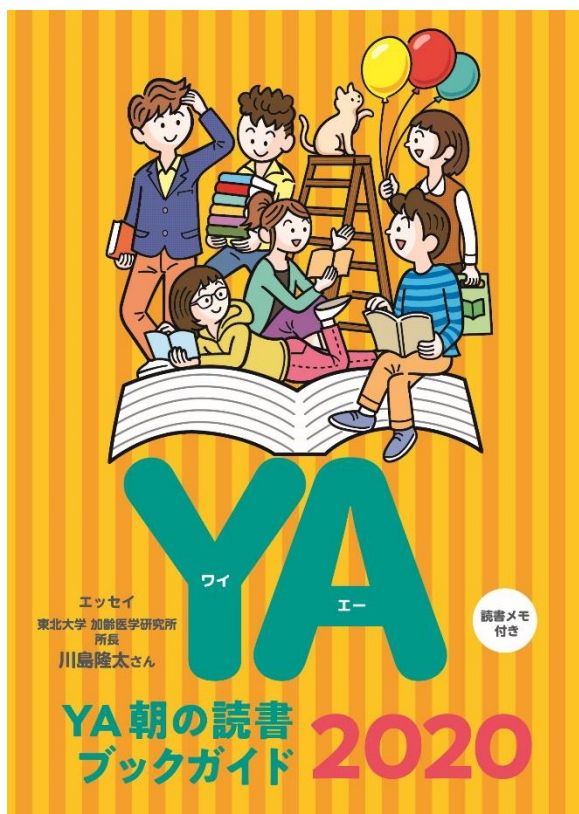
主な活動内容としては1988年に始まった「朝の読書」運動の支援、優れた読書推進をする学校へのYA図書の寄贈、各読書推進団体との情報交換、各県新聞社へのYA書評コーナーの設置（現在14紙）、書店でのYA棚の設置・フェアの提案などがあります。



東山堂でのフェアの様子

2000年から制作している『YA朝の読書ブックガイド』は、多くの学校図書館で「朝の読書」の選書に活用していただいています。

本ガイドブックは、「ハマる」「考える」「チャレンジ」など7つのジャンルにわかれているほか、「ファンタジー」「ノンフィクション」といった本のジャンルや、「家族」「友情」「生き方」といったテーマから本を探ることができる索引も付しています。このブックガイドは毎年の各地への地方研修でご意見をいただき、縦書きから横書きへのレイアウト変更、カラー化など、より魅力的なブックガイドになるよう改良を重ね、制作してきました。



昨年の研修旅行では、盛岡市を訪問し、岩手県立図書館で司書の方々と共同研修を開催しました。岩手県では『いわ100』というブックリストを独自に制作されていて、そのブックリストをどう活用していくかということ、学校、書店、図書館と三位一体になって取り組んでいることに驚かされました。



鳥取県立図書館での研修会の様子 [2017.7]

YA 出版会の研修の一環として、小中高の『朝の読書』の風景を毎年見学させていただいていますが、短い時間でも真剣に本に向き合っている子どもたちの姿をみるたびに、もっとたくさ

んの本の情報を届けてあげたいと、毎回痛切に感じます。最近では「朝の読書」の時間に新聞を読んだり、ブックトークをしたり、読みきかせをしたりとユニークな取り組みをされている学校も見受けられます。



「朝の読書」の風景（盛岡市立仙北中学校）

子どもたちには、彼らを取りまく環境が激しく変化しても、本を読むことによって心が豊かになることを、この大切な YA 世代のときにこそ知ってほしいと思います。そして、彼らに本を手渡してくださる司書の方々がいらっしゃるからこそ、小説やエッセイ、詩などの文学作品のほかにも、YA 世代の知識欲や興味にこたえる図鑑や、すぐに役立つ実用書などの、幅広いジャンルの本（昨今人気を博しています）を子どもたちに届けることができます。こういった本は児童書であったり、一般書でもあったりして、通常のカテゴリからの選書だけでは、見つかりにくい可能性があります。ぜひ1冊でも多くの本を皆様のアイデアで読者に伝えていただきたいです。

情報過多の現代社会のなか、図書館が果たしてゆく役割が大きく注目されています。会員社一同、図書館の皆様とも連携をとりながら、会の活動を推進して参ります。

[YA 出版会 西村安曇（西村書店）]

< YA 出版会 会員社 >

NHK 出版／河出書房新社／くもん出版／晶文社／鈴木出版／静山社／大和書房／東京書籍／西村書店／白水社／評論社／理論社

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. 大正・昭和の即位礼について知りたい。

皇位継承の儀礼は大きく分けると、剣璽 [けんじ] などを受け継ぐ継承の儀と、即位したことを内外に披露する即位礼とからなります。大正天皇の頃からは、「即位礼」と「大嘗祭 [だいじょうさい] (五穀豊饒、国家国民の安寧を祈る祭儀)」を一連の大礼 [たいらい] として行っているため、今回はその2つをキーワードに調査しました。

〔回答〕

大正の即位礼は、明治 42 年 (1909) に公布された登極令 [とうきょくれい] に基づいて行われました。これは皇位継承の儀礼について定めたもので、即位礼、大嘗祭については秋冬の間に京都で行うこと、事務を担当する役職として大礼使を置くこと、などが定められました。従来とは異なり大規模で近代的な即位式となったため、大礼使を務めた柳田国男の提言により内閣で詳細な『大礼記録』が編纂されており、国立国会図書館のデジタルコレクションで見ることができます。

『大礼記録』を見ると、大正 4 年 (1915) 11 月 10 日午前に即位礼当日賢所大前の儀 [そくいらいとうじつかしこどころおおまえのぎ] (即位礼を行うことを神前に申告する儀式) が、午後には紫宸殿の儀 [ししんでんのぎ] (即位したことを宣明する儀式) が行われています。皇族、国会議員や各国の大使など国内外の代表 1,659 名が参列し、国民の代表として当時の首相である大隈重信がお祝いの言葉を読み上げました。その 4 日後に行われた大嘗祭の神饌 [しんせん] には、愛知県と香川県で収穫された稲が用いられ、各地から供納された特産物の中には、岩手県の米と粟もありました。

昭和の即位礼は昭和 3 年 (1928) 11 月 10 日、大正の実施例に基づいて行われました。『昭和天皇実録』などの記録によると参列者は 2,263 名に達し、当時の首相・田中義一が万歳三唱をしました。

昭和天皇の代までは登極令により東京の皇居から京都御所まで移動する必要があったため、道中に敷かれた警備について『昭和大礼警備記録』が残っていますが、昭和 22 年 (1947) に同令は旧皇室典範と共に廃止され、平成、令和の即位礼は東京で行われました。また、『平成大礼要話』によると、大嘗祭の儀場である大嘗宮 [だいじょうきゅう] は儀式のたびに造営、焼却されてきましたが、令和の大嘗祭からは資材を再利用する方針となっています。皇室の伝統も時代に合わせて変化していることが窺える事例でした。

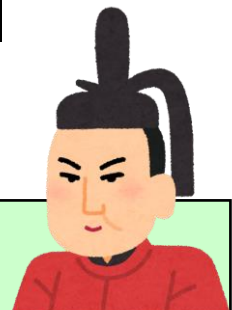
キーワード：即位式 大嘗祭

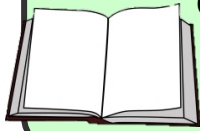
〔調査プロセス〕

1. 事典で「即位礼」について確認。
2. 「即位礼」「大嘗祭」に関する資料を確認。

【参考文献】 ※ () 内は当館請求記号

- 1 『日本大百科全書 14』 小学館 1987.3 (R031/ニ 10/1-14)
- 2 『平凡社大百科事典 8』 平凡社 1985.3 (R031/へ 1/8)
- 3 『皇室事典』 皇室事典編集委員会 || 編著 角川学芸出版 2009.4 (R288.4/コウ)
- 4 『大礼記録』 (国立国会図書館デジタルコレクション)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946360> (最終アクセス日：2020 年 1 月 23 日)
- 5 『昭和天皇実録 第 5』 東京書籍 2016.3 (288.41 /シヨ /5)
- 6 『昭和大礼警備記録 上・下』 内務省警保局 1929.3 (317.7/ナ 1/1-1, 1-2)
- 7 『平成大礼要話』 鎌田 純一 || 著 錦正社 2003.7 (210.091/カマ)





Q. 花巻駅発の時刻表が掲載された古いチラシを持っているが、いつ頃のものか知りたい。表題は「花巻驛發車時間表 巖手縣稗貫郡湯口村 大澤温泉場」で、掲載時刻は下記の通り。

【上り】	【下り】
午前 2時21分 青森発 - 上野着	午前 12時34分 上野発 - 青森着
9時37分 盛岡発 - 白河着	6時16分 直行貨物
午後 1時04分 尻内発 - 福島着	7時46分 一ノ関発 - 盛岡着
4時26分 青森発 - 一ノ関着	9時36分 上野発 - 青森着
6時11分 青森発 - 上野着	11時20分 一ノ関発 - 青森着
7時39分 盛岡発 - 一ノ関着	午後 2時46分 福島発 - 尻内着
8時57分 直行貨物	6時56分 白河発 - 盛岡着

〔回答〕

表題の「巖手」表記から、大正時代以前と推測し〔参考文献 1〕、明治～大正の鉄道史や時刻表の変遷を調査しました。チラシにあるように、東北本線が上野～青森間を1日2往復していたのは、明治30年12月～39年4月と確認できました〔参考文献2・3〕。そこで明治30年代の時刻表復刻版を調べたところ、明治36年7月11日改正の時刻表がチラシの内容とほぼ一致しました〔参考文献4・5〕。

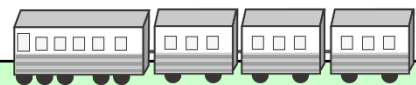
次にこの時刻表が、明治36年7月からいつまで使用されたものかを調査しました。すると、明治37年2月に日露戦争が開戦し戦時ダイヤとなり、戦勝後の凱旋運行を経て、同39年4月から平時ダイヤとなったことがわかりました〔参考文献2・3〕。この間の時刻表は当館未所蔵のため、代わりに新聞(『岩手毎日新聞』『岩手日報』)掲載の時刻表と関連記事を確認しました。時刻表は新聞の欄外余白に、概ね毎日掲載されています。しかし対象期間が長く、欠号も多いため、網羅的な調査はせず、各月始めの欄外を確認し、時刻表未掲載または内容が異なる場合のみ、その周辺期間に時刻改正を伝える記事がないか調査しました。確認できた範囲では、凱旋運行ダイヤに移行する明治38年10月27日まで、明治36年7月改正の時刻表が掲載されていました。ただしこの間、明治37年10月26日に一時的な時刻改正が行なわれ、同年11月25日までは未掲載、11月26日から元の時刻表が掲載されていました〔参考文献6・7〕。

以上からチラシの時刻表は、明治36年7月11日～同38年10月27日頃のもので、このうち明治37年10月26日～11月25日は別の時刻だったと思われる、と推定することができました。

キーワード：巖手県 花巻駅 東北本線 日本鉄道

〔調査プロセス〕

1. 「巖手」表記から、大正時代以前と想定
2. 明治～大正の鉄道史関連資料、時刻表復刻版を調査
3. 時刻表復刻版未所蔵期間は、新聞掲載の時刻表を調査



【参考文献】 ※ () 内は当館請求記号

1. 「レファレンス協同データベース」>岩手県を「巖手県」と書いている本を見かけた。県名に「巖」の字が使われていたのはいつ頃までか？
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000216078 (※最終アクセス日：2020年1月20日)
2. 『全国鉄道と時刻表 2 東北 奥羽』新人物往来社 1986年 (686.21/セン/2) p.177～178、p.221～223、p.231～232
3. 『東北・常磐線 120年の歩み』三宅俊彦 著 グランプリ出版 2004年 (686.212/ミヤ) p.25～30
4. 『旅のつれづれ 第1号』西庫太 編 精美社 1904年 (291.09/セ1/1) 時刻表 p.24～27
5. 『明治大正鉄道省列車時刻表 解説』三宅俊彦 編著 新人物往来社 2000年 (686.55/メイ) p.34
6. 『岩手毎日新聞』(マイクロフィルム) 明治37年10月25日 p.2 「日本鉄道の列車時刻改正」
7. 『岩手日報』(マイクロフィルム)
 - ・ 明治37年10月26日 p.2 「日鉄列車時間改正」
 - ・ 同 11月3日 p.3 「改正後の汽車時間表 当分当駅発旅客列車の時間割左の如し」
 - ・ 明治38年10月27日 p.3 「汽車発着時間改正」
 - ・ 明治39年4月10日 p.2 「日鉄の時間改正」

※このレファレンスの詳細は「レファレンス協同データベース」で公開しています。是非ご覧ください。

児童コーナー わかば通信

よんでビンゴ!



せっかくの長い夏休み、たくさん本を読んでもらいたい



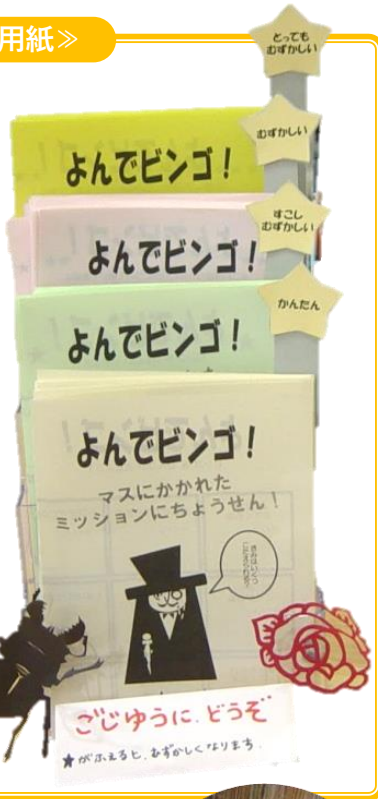
—そこで、児童コーナーでは本を使った「よんでビンゴ!」を開催しました。

図書館のビンゴは、数字ではなくマスに問題が書かれています。

問題は「ねこがでてくる本は?」のような簡単なものから、本を読まないと答えられない難しい問題まで、難易度を分けて全部で4種類! はじめから難しい問題に挑戦する強者も…。問題に答えて、マス目が一列埋まると「ビンゴ!」になります。折り紙や切り絵でつくった昆虫をプレゼントしました。

《ビンゴ用紙》

むずかしい



「あんな本読んだね」「こんな本があるよね」
みんなで相談しながらマスをうめていきます。



プレゼントの昆虫は、自分で捕まえてもらいます。折り紙や切り絵の虫なので、こわくありません。



14 虫が苦手なお友達はお花を、どうぞ♪



図書館掲示板 行ってみよう 文学フリマ岩手！

毎年6月、盛岡市の「岩手県産業会館（サンビル）」にて「文学フリマ岩手」が開催されているのをご存じでしょうか？ 様々なジャンルの文学作品を作り手でもある出店者が自ら販売するという、とてもユニークなイベントです。今回の図書館掲示板では、文学フリマ岩手事務局の小田原さんに文学フリマの概要をご紹介します。この夏ぜひ、足を運んでみてください！



文学フリマは「誰もが参加することのできる文学作品の展示即売会」です。既成の文壇や文芸誌の枠にとらわれることなく自らの<文学>を発表できる「場」を提供すること、作り手や読者が直接コミュニケーションできる「場」を作ることを目的とし、すべての人が<文学>の担い手となることのできるイベントとして構想されました。

そのため、文学フリマは「出店者が自らの手による作品を手ずから販売するマーケット」を原則とし、出店者は自らが<文学>であるとするものを販売・配布し、来場者はそれらを自由に購入することができます。

文学フリマ岩手は2014年に「文学フリマを全国各地に広めることで、文学のみならずすべての文化・芸術活動をより身近で、より豊かなものにすること」を理念とした『文学フリマ百都市構想』が発表された際、全国で7番目の開催地として発足しました。昨年6月に開催された第四回文学フリマ岩手では全国各地より105団体のお申し込みをいただき、456名の参加者を迎えることができました。出店・来場された方からは、「このようなイベントがあることを初めて知った。また参加したい」「これをきっかけにして、次回は出店者として参加してみたい」とうれしいお言葉を多く頂いています。

岩手県は宮沢賢治をはじめ石川啄木や金田一京介、新渡戸稲造といった多くの文学者を輩出した土地であり、2017年には盛岡市在住の沼田真佑氏が芥川賞を受賞し、また遠野や平泉など、多くの文学的背景に恵まれた土壌を擁しています。そのため、文学フリマ岩手では「岩手県の文学的背景にまつわる作品」の



出店に関する独自の出店カテゴリ『イーハトーブ』を設定し、毎回一定数のお申し込みをいただいています。こうした「他の地域にはない、文学フリマ岩手ならではの魅力の創出」を図り広告・宣伝することで、参加者を増やす取り組みを行っています。



文学フリマでは、出店者・来場者が自由に手に取って作品を立ち読みすることのできる『見本誌コーナー』を設けています。コーナーに提出された見本誌は主催事務局への寄贈として扱われ、このうち『新刊』（文学フリマで初めて販売・配布する、または初めて見本誌として提出するもの）と記載された作品は開催終了後、日本大学芸術学部（埼玉県所沢市）に收藏されます。

一般に、市場に流通する書籍・雑誌は資料として国立国会図書館に收藏されますが、即売会等で販売・配布されるいわゆる『同人誌』の行方は作者の各々に委ねられています。そこで「本来は失われるはずの作品をアーカイブすること」を目的として、同学部の協力のもと、こうした活動も行っています。さらに文学フリマ岩手では收藏に先立ち、『いわて若者文化祭』や地元の書店『さわや書店』様の協力をいただき、文学フリマ岩手に出品された作品の展示会を行っており、多くの方が文学フリマ岩手に足を運ぶ“きっかけ”を提供しています。

第五回文学フリマ岩手は2020年6月21日に岩手県産業会館（サンビル）7階大ホールを会場に開催を予定しており、1月25日現在、115団体からの出店のお申し込みをいただいています。文学フリマは入場無料のイベントです。ぜひ当日、お気軽に足をお運びください。きっとたくさんの<文学>に出会うことができますはずです。

[文学フリマ岩手事務局 小田原 聖]





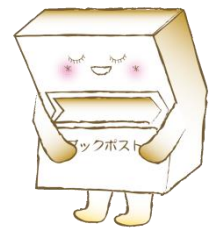
お忙しいところインタビューをご承諾いただいた不来方高校の畠山先生、また、急なお願いにも関わらずご寄稿いただいた文学フリマいわての小田原様、YA出版会の西村様に心より御礼申し上げます。おかげさまで今号の発行に至りました。

公共図書館から10代の方々へ、本の魅力を伝えるためにどう関わっていけるのか——今回の特集が新たな活路に繋がることを願っております。ちなみに畠山先生がいらっしゃる司書室には、県内唯一の芸術科がある高校ならではのアート作品（生徒だけではなく、先生ご自身の作品も！）が並んでおり、インタビュー中にも生徒が訪ねてくるなど、いかにも学校図書館らしいとても素敵な雰囲気でした。県立学校・私立学校へのアプローチはためらわれるかもしれませんが、せっかく「図書館法」でも協力・連携を図ることが明記されていますので、一度学校図書館の見学などをお願いしてみるのも良いかもしれません。

児童コーナーわかば通信で紹介した「よんでビンゴ！」は、連日子どもたちが参加したため、用意した甲虫類の折り紙がすぐになくなり、バックヤードは折り紙工房と化していました。次回は子どもたちに折ってもらえばいいのかもしれませんが。“ビンゴ！”のために手に取った本（いつもなら読まないジャンル）に興味を持ち、そのまま借りていく子どもが多かったようで、保護者の皆様からも喜んでいただきました。皆様の図書館でもお試し頂き、楽しんでもらえたら幸いです。

。

[編集担当:岩手県立図書館 企画広報課]



岩手県立図書館報

としよかん いわて

No. 185

発行日 令和2年2月15日

編集・発行 岩手県立図書館